

六曜吉凶

六曜星、六輝ともいう。はじめは日月火水木金土の七曜と同じく、単に日の順序を示す名称であった。起源は中国の諸葛孔明の吉凶占い(諸葛孔明六壬時課)といわれており、日本には一四世紀ごろ渡来した。

日本に伝わったころの六曜は、大安、留連、速喜、赤口、小吉、空亡であったが、江戸時代後期ごろから現在の、先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口と変化し、それぞれに註釈が付され毎日の運勢判断に用いられるようになった。

現代でも六曜を気にする人は多いが、これはそれぞれの文字に何となく縁起を担ぎたくなる暗示があるからであろう。

六曜の順序

六曜は旧暦の朔ごとに配り方が変わる。一月一日(旧暦)を先勝、二月一日を友引、三月一日を先負、四月一日を仏滅、五月一日を大安、六月一日を赤口として上図の順序で日々循環する。

●	○	●	◐	◑	●
先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口
諸事急ぐことによし、午後よりわるし	朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む	諸事静かなることによし、午後大吉	万事凶、思えば長びくおそれあり	婚礼移転開店等万事に利あり、大吉	諸事ゆだんすべからず、用いるは凶、正午少しよし
七月一日には再び先勝に戻り、以下	八月一日友引	九月一日先負	十月一日仏滅	十一月一日大安	十二月一日赤口となる。

十二直吉凶

十二直の起源は明らかでないが、中国で古代から行われた曆註で、淮南子や漢代の曆譜に既に見えている。月建、即ち毎月節日の夕方北斗七星の柄が指す方位の十二支と密接な関係を持ち、これと同じ十二支の日を建の日とする。

建	除	満	平	定	執	破	危	成	収	開	閉
この日は大吉にて万によし、但し土をうごかし船のりはわるし	何事にもわるき事をよける日なり、物をすつるに大いによし	神祭り家造り移転婚礼開店たねまき等よし	よしあし共に平かなり、すべて相談事に大いによし	この日はたねまき婚礼井戸掘等万事さだめる事には大いによし	この日はすべて手に入れる事によし	この日はやくそく相談その他のとり決め等によろしからず	この日は何事にもあやうき日故旅行航海登山等によろし	この日は縁談結納開店披露柱立て等に用いて大いによし	この日はおさむと云う日故収穫結納其他諸事に用いてさわりなし	この日は入学開業諸事前途の望みとぐるによし、進んで大吉	この日は閉ずという日故開店其他万事に悪日なり、墓石立に吉

二十八宿吉凶

二十八宿はもと、月が二十七日半弱で全天を一周するとき通過する軌道付近の二十八の星座であって、月、太陽、惑星等の位置を示すため、中国、印度等で用いられたものである。後にこれが月の位置と離れて(但し印度流では形式上多少関係がある)日に配当され吉凶を占うに至った。

角	亢	氏	房	心	尾	箕	斗	牛	女	虚	危	室	壁
棟上げ、婚姻等万事進むによし	婚礼、種蒔、衣類裁ち吉、但し造作は凶なり	婚姻、入宅、酒造、種蒔など吉、衣服裁ちは凶	棟上げ、造作によし、嫁取り、田畑を求むるは吉	神仏を祭るに吉、造作はわるし	婚姻、造作、店開き等は吉、衣服裁ちは凶	池を掘り宝を収め溝を掘り庭を造るによし	裁ち縫い、蔵立て、地を掘りてよし	この星にあたる日は万事よし、正午の時は大吉とす	芸能を学ぶによく、葬式を出すは凶	衣服を裁ち縫い、着初め、学問はじめ等よし	家造り、壁ぬり、かまどぬり、酒造りによし、衣服を縫うは凶	袴着、嫁取り、わたまし(転居)井戸掘、仏事を営むによし	婚礼、造作するによく、南に行くは凶
奎	婁	胃	昂	畢	觜	參	井	鬼	柳	星	張	翼	轸
衣服の裁ち縫い、家造り、井戸掘、かまどぬり、橋かけ、仏事等によし	造作、嫁取り、衣服の裁ち縫い、その他急なることはよし	造作、嫁取り、その他公事によく、私事に凶	牛馬を求め、袴着、婚礼、井戸掘等吉、衣服裁ちは凶	神事、婚礼、造作、溝掘、橋かけよし、衣服裁ちは凶	この日は入学、杣入(そまいり)よし、衣服を裁つはわるし	養子を取り、門立、造作よく、衣服を裁つに凶	神事、造作、井戸掘、種まきに吉、衣服を裁つに凶	万事吉、神仏に詣で、家造り、井戸掘、竈塗り等よし、但し婚礼は凶	杣入(そまいり)によく、造作、葬礼、衣服を裁つにわるし	馬乗り始め、厩造り等よし、婚礼葬礼、衣服裁ち、種まきには凶	婚礼、神仏の祈り、または奉公するなどに最もよき吉日なり	衣服裁ち、農事は種まきに吉、高き所の家造りは凶	棟上げ、厩造り、橋掛け、井戸掘、嫁取り、社参、入学によし

むつき 睦月

一月大

危宿 癸丑三碧木星月 暗剣殺 東の方

山形 日出 日入 時分 時分
一日 六五五 六六元
二日 六五五 六六元
三日 六五五 六六元

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三六	十二
一日	火	うい	元日 歳旦祭、初詣、年賀、初卯	旧正月	四緑	赤口	尾	平
二日	水	つちのえ	初夢、初荷、書初め、 皇居一般参賀	二十日	五黄	先勝	箕	定
三日	木	み	元始祭、初巳	二十一日	六白	友引	斗	執
四日	金	かのえ	官庁御用始め	二十二日	七赤	先負	牛	破
五日	土	ひかつ	小寒 一三時三四分、 一三時五八分、初水天宮	二十三日	八白	仏滅	女	破
六日	日	みずのえ	六日年越し	二十四日	九紫	大安	虚	危
七日	月	みずのえ	七草	二十五日	一白	赤口	危	成
八日	火	きのぬえ	初薬師	二十六日	二黒	先勝	室	収
九日	水	きのぬえ	宵えびす、初亥	二十七日	三碧	友引	壁	開
十日	木	ひのえ	初金比羅、十日えびす、初子	二十八日	四緑	先負	奎	閉
十一日	金	うひのし	鏡開き、蔵開き	二十九日	五黄	仏滅	婁	建
十二日	土	つちのえ	朔四時四四分、初寅	三十日	六白	赤口	胃	除
十三日	日	つちのえ	成人の日 臘日、 十四日年越し	旧正月 朔日	七赤	先勝	昂	満
十四日	月	かのえ		二日	八白	友引	畢	平

一月の行事
1日 歳旦祭 祖先の霊に新年の挨拶をし、
五穀豊稔と、国民の幸福、皇室の弥栄を天
神地神に祈る祭りで、宮中を始め全国の神
社で行われる。
1日 初詣で 氏神や日頃崇敬する社寺に詣
で、新年の幸福を祈る。
4日 官庁御用始め
7日 七草(セリ、ナヅナ、ゴギョウ、ハコ
ベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ) 七
草を入れた粥を食べる行事。万病を除くと
いう中国の古俗に由来する。
11日 鏡開き 鏡餅を始末する。昔は切るこ
とを忌み、必ず手や槌などで割った。
第2月曜日 成人の日(もと1月15日) 満
二〇歳になった青年男女が大人となった自
覚を祝う日。
14日 十四日年越し 門松、メ飾りをとる。
14日 臘日 大寒に近い辰(たつ)の日で、
古代は嘉平、清祀などといった。冬の陰気
を除き、万物生ずる地上の恵みを神に謝す
日。
15日 小正月 元日を大正月、十五日を小正
月という。小豆粥を祝い又前日取納めた門
松やメ飾りを焼く。
24日 30日 全国学校給食週間 昭和21年12
月に学校給食試食会が行われたのを記念し
たものだが一ヶ月ずらし一月にする。

大寒

旧十二月 日出 六時五二分 日入 一六時四八分(山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三六	十二
十五日	火	みかのえ	小正月、小豆がゆ	四日	九紫	先負	背	定
十六日	水	みずのえ	やぶいり、えんま詣	五日	一白	仏滅	参	執
十七日	木	みずのえ	土用八時〇八分、阪神淡路大震災	六日	二黒	大安	井	破
十八日	金	さきのえ	初観音	七日	三碧	赤口	鬼	危
十九日	土	ときのえ	●上弦八時四五分、 旧こと納め、旧針供養	八日	四緑	先勝	柳	成
二十日	日	いひのぬえ	大寒 六時五二分、二十日正月	九日	五黄	友引	星	収
二十一日	月	ひのえ	初大師	十日	六白	先負	張	開
二十二日	火	つちのえ		十一日	七赤	仏滅	翼	閉
二十三日	水	つちのえ		十二日	八白	大安	軫	建
二十四日	木	かのえ	初愛宕、初地蔵	十三日	九紫	赤口	角	除
二十五日	金	かのえ	初天神	十四日	一白	先勝	亢	満
二十六日	土	みずのえ	文化財防火デー	十五日	二黒	友引	氏	平
二十七日	日	みずのえ	○望一三時三三分、 国旗制定記念日	十六日	三碧	先負	房	定
二十八日	月	きのぬえ	初不動	十七日	四緑	仏滅	心	執
二十九日	火	ひのえ		十八日	五黄	大安	尾	破
三十日	水	さきのえ		十九日	六白	赤口	箕	危
三十一日	木	とひのえ		二十日	七赤	先勝	斗	成

26日 文化財防火デー 昭和24年のこの日、
法隆寺の金堂が火災にあった。昭和30年か
らこの日を防火運動の日として文化財の愛
護を呼びかけている。
27日 国旗制定記念日 明治3年に郵船商船
規則が公布されその中で「御国旗之事」と明
記して国旗の使い方と大きさが決められた。
県内の主な行事
1日 熊野神社太々神楽(南陽市) 倭舞・人
長舞が奉納される。(三月上旬まで)
10日 初市(山形市) 十日町通りから七日町
通りにかけて出る大市で、名物の初詣をは
じめ、ウス、キネ、ハシゴ、野菜、海産物、
植木などの出店が並ぶ。
中旬 やや祭り(庄内町)八幡神社の神事で、
腰みの、わらじばきの男児が鳥居と拝殿の
間をお百度参りし、その男児に冷水をかけ
無病息災を祈る奇祭。
10日 市神社祭 山形市旅籠町
12日 御嶽神社初龍沢大祭 遊佐町野沢

○一月の平均気温(平成二十三年) 山形1.6 酒田0.1 新庄2.2 (気象庁)

(昭和天皇) ○せつばん草さく山道の森かげに 雪はのこりて春なほ寒し (昭和二三・折にふれて)

きさらぎ
如月

二月平

室宿 甲寅二黒土星月
暗劔殺 坤の方

山形 日出 日入
一日 六・四四七・〇二
至日 六・三三七・二三

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土直
一日	金	つちのえ		旧正月	八白	友引	牛	収
二日	土	つちのと		三十一日	九紫	先負	女	開
三日	日	いのち	●下弦二時五十六分、 節分、節分祭	三十三日	一白	仏滅	虚	閉
四日	月	うかのし	立春 一時一三分 一粒万倍日	三十四日	二黒	大安	危	閉

立春

旧正月節 日出 六時四一分 日入 一七時〇四分 (山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土直
五日	火	みずのえ	さつばろ雪まつり(十一日迄)	三十五日	三碧	赤口	室	建
六日	水	みずのと		三十六日	四緑	先勝	壁	除
七日	木	たきのつ	北方領土の日	三十七日	五黄	友引	奎	満
八日	金	みきのと	こと始め、針供養	三十八日	六白	先負	婁	平
九日	土	うひのえ	初午 一粒万倍日	三十九日	七赤	仏滅	胃	定
十日	日	ひつじ	●朔一六時二〇分、旧元旦 ●建国記念の日 紀元祭、 橿原神宮祭	旧正月 朔日	八白	先勝	昂	執
十一日	月	つちのえ		二日	九紫	友引	畢	破
十二日	火	つちのと		三日	一白	先負	觜	危
十三日	水	いのち	不成就日	四日	二黒	仏滅	參	成
十四日	木	いのち	三りんぼう	五日	三碧	大安	井	収

二月の行事

1日 テレビ放送記念日 昭和28年のこの日わが国でテレビ放送が開始された。

3日 節分 大寒の末日で俗に寒明けともい、「鬼やらい」「豆まき」を行い悪霊である鬼を退散させる。また年男が神社に詣で祓を受ける習慣がある。

8日 針供養 日頃使い古した縫針などを豆腐にさして供養する。

11日 建国記念の日 国を愛し、建国の昔をしのぶ日。

14日 聖バレンタインデー 女性から男性にプロポーズしてもよいという日。日本ではチョコレートを贈るだけの日となったが。

20日 万国郵便連合加盟記念日 明治10年の2月アジアとして最初の加盟国となる。

県内の主な行事

1と2日 王祇祭(黒川能) (柳町町) 黒川春日神社の神事。農民が一年の豊作を祈り、技を研ぎ、心を清めて舞い踊る行事。

1と2日 蔵王樹氷まつり(山形市) 雪像展火祭り。

11日 かせ鳥(上山市) ミノヤコモをかぶったかせ鳥に水をかけて商売繁盛を願う。

15と17日 黒森歌舞伎(酒田市) 黒森日枝神社祭典の奉納神事。

雨水

旧正月 日出 六時二六分 日入 一七時二〇分 (山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土直
十五日	金	みずのえ	横手かまくら 八せん始め	六日	四緑	赤口	鬼	開
十六日	土	みずのと	旧七草 一粒万倍日	七日	五黄	先勝	柳	閉
十七日	日	とらのえ	神宮祈年祭 ●二時〇二分、 ●上弦五時三一分	八日	六白	友引	星	建
十八日	月	うきのと	雨水 ●二時〇二分、 ●上弦五時三一分	九日	七赤	先負	張	除

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土直
十九日	火	たひのつ		十日	八白	仏滅	翼	満
二十日	水	みひのと	不成就日	十一日	九紫	大安	軫	平
二十一日	木	つちのえ	二の午 一粒万倍日	十二日	一白	赤口	角	定
二十二日	金	つちのと		十三日	二黒	先勝	亢	執
二十三日	土	さかのえ	皇太子御誕生日 庚申	十四日	三碧	友引	氏	破
二十四日	日	かのり	旧小正月	十五日	四緑	先負	房	危
二十五日	月	みずのえ		十六日	五黄	仏滅	心	成
二十六日	火	みずのと	○望五時二六分 八せん終り、三りんぼう	十七日	六白	大安	尾	収
二十七日	水	ねきのえ	甲子	十八日	七赤	赤口	箕	開
二十八日	木	うきのし	不成就日、一粒万倍日	十九日	八白	先勝	斗	閉

祭 典	月 日
伊勢神宮の年中神事	
歳旦祭	一月一日
元始祭	一月三日
一月十一日御饗	一月十一日
建国記念祭	二月十一日
祈年祭	二月十七日、二十三日
御園祭	春分
神田下種祭	四月上旬
御田植初	五月上旬
風日祈祭	五月上旬
神御衣祭	同
月次祭	六月十五日、十七日
風日祈祭	八月四日
菰穂祭	九月上旬
御酒殿祭	九月三十日
大祓	九月三十日
御垣殿祭	十月五日
神御衣祭	十月十四日
神嘗祭	十月十五日、十七日
新嘗祭	十一月二十三日、二十九日
月次祭	十二月十五日、十七日
天長祭	十二月二十三日
日別朝夕大御饗祭	毎日

○二月の平均気温(平成二十三年) 山形0.3 酒田1.9 新庄0.9 (気象庁)

やよい
弥生

三月大

壁宿 乙卯一白水星月
暗剣殺 北の方

山形 日出 日入
時分 時分
一日 六二七三
二日 五六一七
三日 五四七五

三月の行事

14日 春の全国火災予防運動
1日 全国緑化運動

3日 ひな祭(雛祭) 桃の節句、雛の節句、上巳の節句ともいう。中国では三月上旬の巳の日川で身を清める習俗があった。これとわが国上古のひな遊びとが結びついたもの。ひなを飾り、桃の花、三色又は五色の菱餅、白酒、桃酒、あらねなどを供え、女兒の成長と幸福を祝す。

3日 耳の日 3月3日が「みみ」に通じること、三重舌のヘレン・ケラーが初めて教育をうけた日ともいう。

7日 消防記念日 昭和23年消防組織法施行。自治体消防として独立した日。

8日 国際女性デー 明治37年、アメリカの女性達が、参政権獲得のために催した日。

20日 春分の日 自然をたたえ生物をいつくしむ国民の祝日。

23日 世界気象デー 昭和25年のこの日世界気象機関条約が発効した。

25日 電気記念日 明治11年のこの日、日本ではじめて電気が点灯した。

旧暦3月3日 汐干狩 潮汐干満の差は春分秋分に近い朔望の頃最も大きい。昔から旧暦三月三日を汐干狩の適時としている。

啓蟄

旧二月節 日出 六時〇五分 日入 一七時三六分(山形)

日	七曜	千支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土宜
一日	金	ひのえ	春の全国火災予防運動、旧二十日正月	旧正月	九紫	友引	牛	建
二日	土	うのえ		三十一日	一白	先負	女	除
三日	日	つちのえ	ひな祭、耳の日	三十二日	二黒	仏滅	虚	満
四日	月	みづのえ		三十三日	三碧	大安	危	平
五日	火	かのえ	啓蟄 一九時一五分、一九時一五分、一九時一五分	三十四日	四緑	赤口	室	平
六日	水	かづのえ		三十五日	五黄	先勝	壁	定
七日	木	みづのえ	消防記念日	三十六日	六白	友引	奎	執
八日	金	とみづのえ	国際女性デー	三十七日	七赤	先負	婁	破
九日	土	いきのぬえ	不成就日、一粒万倍日	三十八日	八白	仏滅	胃	危
十日	日	いきのぬえ		三十九日	九紫	大安	昂	成
十一日	月	ねひのえ	東日本大震災	三十日	一白	赤口	畢	收
十二日	火	うひのえ	●朔四時五十分	旧二月一日	二黒	友引	觜	開
十三日	水	つちのえ	●朔四時五十分	二日	三碧	先負	参	閉
十四日	木	うづちのえ	天しや、不成就日、一粒万倍日、二りんぼう	三日	四緑	仏滅	井	建

春分

旧二月中 日出 五時四三分 日入 一七時五〇分(山形)

日	七曜	千支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土宜
十五日	金	たのえ		四日	五黄	大安	鬼	除
十六日	土	みかのえ		五日	六白	赤口	柳	満
十七日	日	みづのえ	彼岸入り、旧初午	六日	七赤	先勝	星	平
十八日	月	みづのえ		七日	八白	友引	張	定
十九日	火	さきのえ	旧こと始め、旧針供養	八日	九紫	先負	翼	執
二十日	水	とりのえ	●春分の日 春分二〇時〇二分、二〇時〇二分、一粒万倍日	九日	一白	仏滅	軫	破
二十一日	木	いひのぬえ		十日	二黒	大安	角	危
二十二日	金	いひのぬえ	NHK放送記念日	十一日	三碧	赤口	亢	成
二十三日	土	つちのえ	社日、彼岸明け、世界気象記念日	十二日	四緑	先勝	氏	収
二十四日	日	つちのえ		十三日	五黄	友引	房	開
二十五日	月	かのえ	電気記念日	十四日	六白	先負	心	閉
二十六日	火	うかのえ	一粒万倍日、二りんぼう	十五日	七赤	仏滅	尾	建
二十七日	水	みづのえ	○望一八時二七分、表千家利休忌	十六日	八白	大安	箕	除
二十八日	木	みづのえ	裏千家利休忌	十七日	九紫	赤口	斗	満
二十九日	金	うきのえ	旧二の午	十八日	一白	先勝	牛	平
三十日	土	ひきのえ	不成就日	十九日	二黒	友引	女	定
三十一日	日	さひのえ		二十日	三碧	先負	虚	執

神社の祭典日

1日 小塩稲荷神社祭 東村山郡中山町
第4土曜日 成島八幡宮初卯祭 米沢市広幡町成島

ひな人形の飾り方

内裏びなは初節句(生まれて初めての節句)の時妻の実家から贈るのが古いしきたりとされている。女兒の家ではそれを飾り、娘が将来幸せな結婚にめぐまれるように祈る風俗がある。

飾り方は関東と関西ではかなりの違いがあつて一定していないが、段飾りの場合は、現在、

- 一段め 内裏雛
- 二段め 三人官女
- 三段め 五人ばやし
- 四段め 隨身(ずいじん)
- 五段め 仕丁(しちょう)

というものが、一般的に飾り方とされている。

なお内裏雛の男雛と女雛の並べ方は、江戸時代には確かなきまはりはなく、どちらかといえは向かって右が男雛、左が女雛という並べ方が多く見られたが、昭和の即位御大典の時から、両陛下の高御座(たかみくら)にならつて、男雛を向かって左に飾るようになったという。

○三月の平均気温(平成二十三年) 山形1.7 酒田2.9 新庄0.5

(気象庁)

注 数字の右の「」は品質に軽微な問題があるか、または統計値を求める対象となる資料の一部が許容する範囲内で欠けている場合修正値。

うづき
卯月

四月小

奎宿 丙辰九紫火星月
暗剣殺 南の方

山形

日出 日入
時分 時分
五二四 八二二
五二四 八二二
五二四 八二二

二十六日部分月食 日本では一般に、北日本および関東地方の一部を除く地域で部分月食が見られる。ただし、関東地方(一部を除く)、中部地方、近畿地方、中国地方東部、四国地方東部では月入帯食となる。

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	干支	土置
一日	月	とひのり	学年始め	旧二月	四緑	仏滅	危	破
二日	火	つちのぬえ		二三日	五黄	大安	室	危
三日	水	いづのぬえ	●下弦一三時三七分	二三日	六白	赤口	壁	成
四日	木	ねかのえ		二四日	七赤	先勝	奎	収
五日	金	うかのしと	清明 ○時〇二分	二五日	八白	友引	婁	収
六日	土	みずのえ		二六日	九紫	先負	胃	開
七日	日	みずのえ	世界保健デー 灌仏、花まつり	二七日	一白	仏滅	昂	閉
八日	月	たきのえ		二八日	二黒	大安	畢	建
九日	火	みきのえ		二九日	三碧	赤口	觜	除
十日	水	うひのえ	●朔一八時三五分 不成就日、三りんぼう メートル法公布記念日	旧三月 朔日	四緑	先負	参	満
十一日	木	ひひのえ		二日	五黄	仏滅	井	平
十二日	金	さつちのえ	世界宇宙飛行の日、旧ひな祭	三日	六白	大安	鬼	定
十三日	土	つちのり		四日	七赤	赤口	柳	執
十四日	日	いかのぬえ		五日	八白	先勝	星	破

四月の行事

1日 エイプリル・フルー 一八世紀頃欧米で始まったといわれる。この日だけは人をかついだりしても許される。

8日 灌仏 花まつりともいう。釈迦の誕生を祝し、甘露に擬した甘茶を釈迦の立像に注ぐ。

20日 郵政記念日 明治4年、それまでの飛脚制度に代わり郵便制度が始まったことに因む記念日。20、26日までが郵便週間、切手趣味週間。

28日 サンフランシスコ平和条約発効記念日 昭和26年連合国と日本で平和条約が調印され翌年のこの日発効した。

29日 昭和の日 昭和天皇御誕生日。(P.25 下段参照)

県内の主な行事

14、15日 蔵島神社神輿流し(温海町) 鼠ヶ関の弁天島にある蔵島神社の神事で、白装束姿の若者が神輿を川に流し水をかけ合う雄壮な行事。

29、5月3日 上杉まつり(米沢市) 上杉神社例祭に続いて行われる。民踊流し。武蔵式。神輿渡御、武者行列、川中島合戦、上杉砲術隊の一斉射撃などが見物。

第3土・日曜日 天皇さくらまつり(天童市) 人間将棋が催され、温泉の芸者、商店街の主人がそれぞれ赤白の駒になり、有名人の対局が行われる。

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	干支	土置
十五日	月	かのと		六日	九紫	友引	張	危
十六日	火	みずのえ	土用五時三三分 八せん始め、一粒万倍日	七日	一白	先負	翼	成
十七日	水	うみずのし		八日	二黒	仏滅	軫	収
十八日	木	きとのえ	●上弦二二時三一分、発明の日 不成就日	九日	三碧	大安	角	開
十九日	金	うきのえ		十日	四緑	赤口	亢	閉
二十日	土	たひのえ	穀雨 七時〇三分、郵政記念日、郵便週間	十一日	五黄	先勝	氏	建

神社の祭典日

3日 熊野神社祭 寒河江市平塩

8日 島海山天物忌神社祭 遊佐町吹浦

9日 日枝神社祭 東根市長瀬

12日 氣比神社祭 鶴岡市三瀬

15日 八幡神社祭 上山市宮脇

19日 住吉神社祭 大石田町豊田

21日 白山神社祭 鶴岡市小岩川

23日 大社神社祭 尾花沢市正蔵

25日 皇大神社祭 高島町二井宿

27日 栗川稻荷神社祭 南陽市池黒

29日 鶴岡護国神社祭 鶴岡市馬場町

30日 愛宕神社祭 天童市北目

1日 天満神社祭 山形市小白川町

2日 月岡神社祭 上山市元城内

3日 天満神社祭 村山市湯野沢

4日 諏訪神社祭 遊佐町比子

5日 羽黒神社祭 南陽市池黒

6日 御城稻荷神社祭 鶴岡市馬場町

7日 上杉神社祭 米沢市丸の内

8日 八幡神社祭 鶴岡市長沼

9日 寒河江八幡宮春祭 寒河江市八幡町

10日 千歳稻荷神社祭 山形市千歳山

11日 神明神社祭 山形市錦町

12日 田川八幡神社祭 鶴岡市田川宮野前

13日 日枝神社祭 酒田市黒森

14日 松岬神社祭 米沢市丸の内

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	干支	土置
三十一日	火	とひのえ	紙婚式(二年)、本婚式(五年)、錫婚式(十年)、水晶・鋼婚式(十五年)、陶婚式(二十年)、銀婚式(二十五)、金婚式(三十年)、金剛石婚式(六十年)	二二日	六白	大安	室	開
三十日	月	うきのしと	昭和の日	二三日	五黄	仏滅	危	収
二十九日	日	ねきのえ	孔子祭	二四日	四緑	先負	虚	成
二十八日	土	みずのえ	○望四時五七分 不成就日	二五日	三碧	友引	女	危
二十七日	金	いづのぬえ		二六日	二黒	先勝	牛	破
二十六日	木	とかのり		二七日	一白	赤口	斗	執
二十五日	水	さかのえ	庚申	二八日	九紫	大安	箕	定
二十四日	火	ひつちのえ		二九日	八白	仏滅	尾	平
二十三日	月	つちのえ	三りんぼう	三十日	七赤	先負	心	満
二十二日	日	みひのえ		三十一日	六白	友引	房	除

結婚記念式

紙婚式(二年)、本婚式(五年)、錫婚式(十年)、水晶・鋼婚式(十五年)、陶婚式(二十年)、銀婚式(二十五)、金婚式(三十年)、金剛石婚式(六十年)

さつき 五月大

五月大 婁宿 丁巳八白土星月 暗剣殺 良の方
十日金環日食 日本では南島とその周辺海域で部分食が見られる。

山形 日出 日入 時分 時分
一日 四三二八分 四三二八分
二日 四三二八分 四三二八分
三日 四三二八分 四三二八分
四日 四三二八分 四三二八分
五日 四三二八分 四三二八分
六日 四三二八分 四三二八分
七日 四三二八分 四三二八分
八日 四三二八分 四三二八分
九日 四三二八分 四三二八分
十日 四三二八分 四三二八分
十一日 四三二八分 四三二八分
十二日 四三二八分 四三二八分
十三日 四三二八分 四三二八分
十四日 四三二八分 四三二八分
十五日 四三二八分 四三二八分
十六日 四三二八分 四三二八分
十七日 四三二八分 四三二八分
十八日 四三二八分 四三二八分
十九日 四三二八分 四三二八分
二十日 四三二八分 四三二八分
二十一日 四三二八分 四三二八分
二十二日 四三二八分 四三二八分
二十三日 四三二八分 四三二八分
二十四日 四三二八分 四三二八分
二十五日 四三二八分 四三二八分
二十六日 四三二八分 四三二八分
二十七日 四三二八分 四三二八分
二十八日 四三二八分 四三二八分
二十九日 四三二八分 四三二八分
三十日 四三二八分 四三二八分

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三六	十二
一日	水	うの	労働祭	旧三月	七赤	赤口	壁	閉
二日	木	つちの	●下弦二〇時一四分、八十八夜	十三日	八白	先勝	奎	建
三日	金	み	○憲法記念日	十四日	九紫	友引	婁	除
四日	土	かの	○みどりの日	十五日	一白	先負	胃	満
五日	日	ひかの	○こどもの日	十六日	二黒	仏滅	昂	満

五月の行事
1日 メーデー 労働者の国際的な祭典日。
2日 八十八夜 立春から数えて八十八日目このあと霜の降ることはほとんどない。
3日 憲法記念日 新憲法が昭和22年に施行された日。
4日 みどりの日 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。
5日 こどもの日 端午の節句ともいう。中国の五月初午の祓の变化したもの。武者人形を飾り、鯉のぼりを立て、柏餅やちまきを供え男児の幸福を祝す。又この日菖蒲湯に浴して病災除けとする。
第2日曜日 母の日 赤いカーネーションを贈り母の恩に感謝する。
県内の主な行事
8日 薬師祭り (山形市) 薬師寺の縁日の8日から3日間薬師公園、薬師通り新築西通りにかけて植木市が開かれる。川崎、大坂などと並んで全国三大植木市の一つ。
20日 山王祭 (酒田市) 日枝神社の神事。山車渡御行列が市内をねり歩く。
25日 天満宮化けものまつり (鶴岡市) 手拭いと編笠で顔をかくした「化けもの」が酒と盃をもち通行人に無言で酒をふるまう奇祭。三年間誰れにも知られずお詣りでされば念願がかなえられるという。

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三六	十二
一日	水	うの	労働祭	旧三月	七赤	赤口	壁	閉
二日	木	つちの	●下弦二〇時一四分、八十八夜	十三日	八白	先勝	奎	建
三日	金	み	○憲法記念日	十四日	九紫	友引	婁	除
四日	土	かの	○みどりの日	十五日	一白	先負	胃	満
五日	日	ひかの	○こどもの日	十六日	二黒	仏滅	昂	満
六日	月	みずの	振替休日	十七日	三碧	大安	畢	平
七日	火	みずの	世界赤十字デー	十八日	四緑	赤口	背	定
八日	水	きの	●朔九時二八分、愛鳥週間	十九日	五黄	先勝	参	執
九日	木	きの	三りんばう	二十日	六白	友引	井	破
十日	金	ねの	母の日、看護の日、海上保安の日	二十一日	七赤	仏滅	鬼	危
十一日	土	うひの	不成就日、一粒万倍日	二十二日	八白	大安	柳	成
十二日	日	つちの	不成就日、一粒万倍日	二十三日	九紫	赤口	星	収
十三日	月	つちの	一粒万倍日	二十四日	一白	先勝	張	開
十四日	火	たかの	一粒万倍日	二十五日	二黒	友引	翼	閉

神社の祭典日
1日 北館神社祭 庄内町狩川
2日 御嶽神社祭 遊佐町当山
3日 山王祭 酒田市山王
4日 山王祭 酒田市山王
5日 山王祭 酒田市山王
6日 山王祭 酒田市山王
7日 山王祭 酒田市山王
8日 山王祭 酒田市山王
9日 山王祭 酒田市山王
10日 山王祭 酒田市山王
11日 山王祭 酒田市山王
12日 山王祭 酒田市山王
13日 山王祭 酒田市山王
14日 山王祭 酒田市山王
15日 山王祭 酒田市山王
16日 山王祭 酒田市山王
17日 山王祭 酒田市山王
18日 山王祭 酒田市山王
19日 山王祭 酒田市山王
20日 山王祭 酒田市山王
21日 山王祭 酒田市山王
22日 山王祭 酒田市山王
23日 山王祭 酒田市山王
24日 山王祭 酒田市山王
25日 山王祭 酒田市山王

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三六	十二
一日	水	うの	労働祭	旧三月	七赤	赤口	壁	閉
二日	木	つちの	●下弦二〇時一四分、八十八夜	十三日	八白	先勝	奎	建
三日	金	み	○憲法記念日	十四日	九紫	友引	婁	除
四日	土	かの	○みどりの日	十五日	一白	先負	胃	満
五日	日	ひかの	○こどもの日	十六日	二黒	仏滅	昂	満
六日	月	みずの	振替休日	十七日	三碧	大安	畢	平
七日	火	みずの	世界赤十字デー	十八日	四緑	赤口	背	定
八日	水	きの	●朔九時二八分、愛鳥週間	十九日	五黄	先勝	参	執
九日	木	きの	三りんばう	二十日	六白	友引	井	破
十日	金	ねの	母の日、看護の日、海上保安の日	二十一日	七赤	仏滅	鬼	危
十一日	土	うひの	不成就日、一粒万倍日	二十二日	八白	大安	柳	成
十二日	日	つちの	不成就日、一粒万倍日	二十三日	九紫	赤口	星	収
十三日	月	つちの	一粒万倍日	二十四日	一白	先勝	張	開
十四日	火	たかの	一粒万倍日	二十五日	二黒	友引	翼	閉

神社の祭典日
1日 北館神社祭 庄内町狩川
2日 御嶽神社祭 遊佐町当山
3日 山王祭 酒田市山王
4日 山王祭 酒田市山王
5日 山王祭 酒田市山王
6日 山王祭 酒田市山王
7日 山王祭 酒田市山王
8日 山王祭 酒田市山王
9日 山王祭 酒田市山王
10日 山王祭 酒田市山王
11日 山王祭 酒田市山王
12日 山王祭 酒田市山王
13日 山王祭 酒田市山王
14日 山王祭 酒田市山王
15日 山王祭 酒田市山王
16日 山王祭 酒田市山王
17日 山王祭 酒田市山王
18日 山王祭 酒田市山王
19日 山王祭 酒田市山王
20日 山王祭 酒田市山王
21日 山王祭 酒田市山王
22日 山王祭 酒田市山王
23日 山王祭 酒田市山王
24日 山王祭 酒田市山王
25日 山王祭 酒田市山王

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三六	十二
一日	水	うの	労働祭	旧三月	七赤	赤口	壁	閉
二日	木	つちの	●下弦二〇時一四分、八十八夜	十三日	八白	先勝	奎	建
三日	金	み	○憲法記念日	十四日	九紫	友引	婁	除
四日	土	かの	○みどりの日	十五日	一白	先負	胃	満
五日	日	ひかの	○こどもの日	十六日	二黒	仏滅	昂	満
六日	月	みずの	振替休日	十七日	三碧	大安	畢	平
七日	火	みずの	世界赤十字デー	十八日	四緑	赤口	背	定
八日	水	きの	●朔九時二八分、愛鳥週間	十九日	五黄	先勝	参	執
九日	木	きの	三りんばう	二十日	六白	友引	井	破
十日	金	ねの	母の日、看護の日、海上保安の日	二十一日	七赤	仏滅	鬼	危
十一日	土	うひの	不成就日、一粒万倍日	二十二日	八白	大安	柳	成
十二日	日	つちの	不成就日、一粒万倍日	二十三日	九紫	赤口	星	収
十三日	月	つちの	一粒万倍日	二十四日	一白	先勝	張	開
十四日	火	たかの	一粒万倍日	二十五日	二黒	友引	翼	閉

神社の祭典日
1日 北館神社祭 庄内町狩川
2日 御嶽神社祭 遊佐町当山
3日 山王祭 酒田市山王
4日 山王祭 酒田市山王
5日 山王祭 酒田市山王
6日 山王祭 酒田市山王
7日 山王祭 酒田市山王
8日 山王祭 酒田市山王
9日 山王祭 酒田市山王
10日 山王祭 酒田市山王
11日 山王祭 酒田市山王
12日 山王祭 酒田市山王
13日 山王祭 酒田市山王
14日 山王祭 酒田市山王
15日 山王祭 酒田市山王
16日 山王祭 酒田市山王
17日 山王祭 酒田市山王
18日 山王祭 酒田市山王
19日 山王祭 酒田市山王
20日 山王祭 酒田市山王
21日 山王祭 酒田市山王
22日 山王祭 酒田市山王
23日 山王祭 酒田市山王
24日 山王祭 酒田市山王
25日 山王祭 酒田市山王

みなづき
水無月

六月小

胃宿 戊午七赤金星月
暗剣殺 西の方

山形 日出 日入
時分 時分
一日 四二七・八八
二日 四・五・九・〇・五
三日 四・五・九・〇・五

六月の行事

1日 気象記念日 明治8年のこの日東京赤坂に気象台が設置された。
4・10日 歯の衛生週間 6月4日をムシと読み、虫歯予防デーとした。
11日 入梅 芒種から六日目以後約一ヶ月雨季が続く。梅雨はこの頃に梅の実が熟するの得名付けられた。
第3日曜日 父の日 日頃の父の恩に感謝する日。
23日 オリンピックデー 明治27年のこの日パリでクーベルタン男爵の提唱により国際会議が開かれた。
28日 貿易記念日 安政6年 横浜、長崎、函館を開港、鎖国が解けた。
30日 大赦 罪穢を赦い清める神事で古来宮中を始め各神社で盛んに行われている。信仰者は「ひとがた」でからだをなで、口気を吹込み神社へ持参し、又茅で作った大きな輪をくぐり、半年の間に積った身の罪、けがれを赦い清め新たな半年を迎える。

県内の主な行事

5日 大山まつり(鶴岡市) 榎尾神社の神事。大山の犬まつりともいわれ、大名行列が町内をねり歩く。
初旬・中旬 しゃくやく祭り(南陽市) 諏訪

芒種

旧五月節 日出 四時一六分 日入 一八時五九分(山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三才	土直
一日	土	つちのえ	●下弦三時五八分、気象記念日、写真の日、電波の日	旧四月	二黒	友引	胃	執
二日	日	つちのと	測量の日	二十四日	三碧	先負	昂	破
三日	月	かのえ	歯の衛生週間	二十五日	四緑	仏滅	畢	危
四日	火	かのしと	芒種 二時三十分、世界環境デー	二十六日	五黄	大安	觜	成
五日	水	みづのえ	芒種 二時三十分、世界環境デー	二十七日	六白	赤口	参	成
六日	木	みづのと	不成就日	二十八日	七赤	先勝	井	収
七日	金	たきのえ	一粒万倍日	二十九日	八白	友引	鬼	開
八日	土	みきのと	一粒万倍日	三十日	九紫	先負	柳	閉
九日	日	ひのえ	●朔○時五六分 一粒万倍日	旧五月朔日	一白	大安	星	建
十日	月	ひつと	時の記念日、近江神宮漏刻祭	二日	二黒	赤口	張	除
十一日	火	つちのえ	入梅二時四七分	三日	三碧	先勝	翼	満
十二日	水	つちのと	旧端午	四日	四緑	友引	軫	平
十三日	木	いのえ	不成就日	五日	五黄	先負	角	定
十四日	金	いのと	不成就日	六日	六白	仏滅	亢	執

夏至

旧五月中 日出 四時一五分 日入 一九時〇五分(山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三才	土直
十五日	土	みづのえ	八せん始め	七日	七赤	大安	氏	破
十六日	日	みづのと	父の日	八日	八白	赤口	房	危
十七日	月	きのえ	●上弦二時二四分、神宮月次祭	九日	九紫	先勝	心	成
十八日	火	うきのと	一粒万倍日	十日	一白	友引	尾	収
十九日	水	たひのえ	一粒万倍日	十一日	二黒	先負	箕	開
二十日	木	みひのと	一粒万倍日	十二日	三碧	仏滅	斗	閉
二十一日	金	つちのえ	夏至 一四時〇四分 不成就日、一粒万倍日	十三日	四緑	大安	牛	建
二十二日	土	つちのと	夏至 一四時〇四分 不成就日、一粒万倍日	十四日	五黄	赤口	女	除
二十三日	日	さかのえ	○望二〇時三二分、沖縄慰霊の日 庚申	十五日	六白	先勝	虚	満
二十四日	月	とかのり		十六日	七赤	友引	危	平
二十五日	火	みづのえ		十七日	八白	先負	室	定
二十六日	水	みづのと	八せん終り	十八日	九紫	仏滅	壁	執
二十七日	木	ねきのえ	陰道始め、甲子	十九日	九紫	大安	奎	破
二十八日	金	うきのしと	貿易記念日	三十日	八白	赤口	婁	危
二十九日	土	ひのえ	不成就日、三りんぼう	三十一日	七赤	先勝	胃	成
三十日	日	うひのと	●下弦一三時五四分、大赦、夏越祭	三十二日	六白	友引	昂	収

神社の祭典日

2日 三島神社祭 山形市三島通
3日 日枝神社祭 鶴岡市日枝
5日 榎尾神社祭 鶴岡市馬町
15日 金峯神社祭 鶴岡市青龍寺
24日 愛宕神社講中大祭 山形市小白川町
26日 酢川温泉神社祭 山形市蔵王温泉

ふみづき
文月

七月大

昂宿 己未六白金星月
暗剣殺 乾の方

山形 日出 日入
一日 四・四九 四・五〇
二日 四・五〇 四・五〇
三日 四・五〇 四・五〇
四日 四・五〇 四・五〇
五日 四・五〇 四・五〇
六日 四・五〇 四・五〇
七日 四・五〇 四・五〇
八日 四・五〇 四・五〇
九日 四・五〇 四・五〇
十日 四・五〇 四・五〇
十一日 四・五〇 四・五〇
十二日 四・五〇 四・五〇
十三日 四・五〇 四・五〇
十四日 四・五〇 四・五〇
十五日 四・五〇 四・五〇
十六日 四・五〇 四・五〇
十七日 四・五〇 四・五〇
十八日 四・五〇 四・五〇
十九日 四・五〇 四・五〇
二十日 四・五〇 四・五〇
二十一日 四・五〇 四・五〇
二十二日 四・五〇 四・五〇
二十三日 四・五〇 四・五〇
二十四日 四・五〇 四・五〇
二十五日 四・五〇 四・五〇
二十六日 四・五〇 四・五〇
二十七日 四・五〇 四・五〇
二十八日 四・五〇 四・五〇
二十九日 四・五〇 四・五〇
三十日 四・五〇 四・五〇
三十一日 四・五〇 四・五〇

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九曜	三才	土曜
一日	月	つちのえ	全国各地海山開き、富士山開き、国民安全の日、全国安全週間	旧五月	五黄	先負	畢
二日	火	つちのえ	半夏生一時四十分	二十四日	四緑	先負	畢
三日	水	みづのえ	己巳、一粒万倍日	二十五日	三碧	大安	參
四日	木	みづのえ	一粒万倍日	二十六日	二黒	赤口	井
五日	金	みづのえ		二十七日	一白	先勝	鬼
六日	土	みづのえ		二十八日	九紫	友引	柳
七日	日	いきのぬえ	小暑 七時三十分、七夕	二十九日	八白	先負	星

小暑

旧六月節 日出 四時三十分 日入 一九時〇五分(山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧六月	七曜	三才	土曜
八日	月	いきのぬえ	朔一六時一四十分	朔日	七赤	赤口	張
九日	火	ねのえ		二日	六白	先勝	翼
十日	水	うひのえ		三日	五黄	友引	軫
十一日	木	つちのえ		四日	四緑	先負	角
十二日	金	つちのえ		五日	三碧	大安	亢
十三日	土	かんのえ	精霊祭、迎え火、靖国神社みたままつり 初候、不成候日	六日	二黒	赤口	氏
十四日	日	みかのえ		七日	一白	先勝	房

七月の行事

7日 七夕 葉竹に五色の紙を飾り牽牛、織女の二星に子女が幸運、恋愛等を祈る。年に一度この夜かささぎの翼の橋によつて天の川を渡り、二星相見ると伝える。

13日 精霊祭 祖先の霊をなぐさめる。13日に迎え火で霊をよび、16日には送り火を焚く。盂蘭盆(梵語ウランバナ)の略で救倒懸と訳す。目蓮尊者が釈迦の教により七月十五日百味飯食を供え、地獄の母の頭下足上の苦を救つたことに始まる。わが国では固有の精霊祭に同化した。

山形県では一ヶ月遅れの8月に行うのが多い。

第三月曜 海の日(もと7月20日) 明治9年、明治天皇が東北地方巡幸の折、明治丸で青森から函館を経由して横浜に帰港した日を記念する日。

下旬 土用の丑 土用中のうしの日。現在はウナギを食べる習慣が定着している。

県内の主な行事

上旬 東根温泉まつり(東根市) 子供達の七夕ちようちん行列が市内をねり歩く。

15日 出羽三山まつり(羽黒町) 出羽三山神社例祭の神事。花梵天という大きな造花

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧六月	七曜	三才	土曜
十五日	月	みづのえ	海の日 はん、祖霊祭 一粒万倍日、三りんばう	八日	九紫	先勝	心
十六日	火	みづのえ	上弦二時一八分、やぶいり、えんま詣、送り火	九日	八白	友引	尾
十七日	水	さきのえ		十日	七赤	先負	箕
十八日	木	とりのえ	土用二時二九分 一粒万倍日	十一日	六白	大安	斗
十九日	金	いひのぬえ		十二日	五黄	赤口	牛
二十日	土	いひのぬえ		十三日	四緑	先負	女
二十一日	日	つちのえ		十四日	三碧	先勝	虚
二十二日	月	つちのえ	土用の丑 不成候日	十五日	二黒	友引	危
二十三日	火	かんのえ	大暑 〇時五十六分、〇望三時一六分 中伏	十六日	一白	先負	室

大暑

旧六月中 日出 四時三十分 日入 一八時五十七分(山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧六月	七曜	三才	土曜
二十四日	水	うかのえ	地蔵ぼん	十七日	九紫	先勝	壁
二十五日	木	みづのえ		十八日	八白	大安	奎
二十六日	金	みづのえ	天二天上	十九日	七赤	赤口	婁
二十七日	土	ききのえ	天しや、一粒万倍日、三りんばう	二十日	六白	先勝	胃
二十八日	日	ひきのえ		二十一日	五黄	友引	昂
二十九日	月	さひのえ	不成候日	二十二日	四緑	先負	畢
三十日	火	ひのえ	下弦二時四十分 一粒万倍日	二十三日	三碧	大安	觜
三十一日	水	つちのえ		二十四日	二黒	赤口	參

神社の祭典日

9日 白子神社祭 米沢市城北町

大杜梓神社祭 米沢市万世町梓山

10日 歌懸稲荷神社祭 山形市十日町

蔵王山神社祭 山形市蔵王

13日 皇大神宮祭 米沢市本町

鳥海山大物忌神社 遊佐町吹浦

火合 せ 祭 酒田市飛鳥宮海

15日 出羽三山神社祭(花祭) 鶴岡市羽黒町

羽黒神社祭 米沢市関根

八幡神社祭 尾花沢市尾花沢

石崎神社祭 上山市石崎

16日 皇大神社祭 米沢市中央

19日 御所神社祭 尾花沢市正殿

愛宕神社祭(鎮火祭) 山形市小白川町

24日 愛宕神社祭 上山市十日町

宮内熊野神社祭 南陽市宮内

25日 天満神社祭 米沢市長手

はづき
葉月

八月大

畢宿 庚申五黄土星月
暗釵殺 なし

山形 日出 日入
一日 四時 八時
二日 四時 八時
三日 四時 八時
四日 四時 八時
五日 四時 八時
六日 四時 八時
七日 四時 八時
八日 四時 八時
九日 四時 八時
十日 四時 八時
十一日 四時 八時
十二日 四時 八時
十三日 四時 八時
十四日 四時 八時
十五日 四時 八時
十六日 四時 八時
十七日 四時 八時
十八日 四時 八時
十九日 四時 八時
二十日 四時 八時
二十一日 四時 八時
二十二日 四時 八時
二十三日 四時 八時
二十四日 四時 八時
二十五日 四時 八時
二十六日 四時 八時
二十七日 四時 八時
二十八日 四時 八時
二十九日 四時 八時
三十日 四時 八時
三十一日 四時 八時

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三六士
一日	木	つちのと	水の週間、八朔	旧六月	九星	六曜	三六士
二日	金	かのえ	津軽ねぶた祭	二十五日	一白	赤口	井 定
三日	土	かのし	土用の丑、秋田竿燈	二十六日	九紫	先勝	鬼 執
四日	日	みずのえ	山形花笠まつり前夜祭 (山形市)	二十七日	八白	友引	柳 破
五日	月	みずのえ	山形花笠まつり	二十八日	七赤	先負	星 危
六日	火	たきのつえ	広島原爆記念日	二十九日	六白	仏滅	張 成
七日	水	みきのと	立秋 一七時二〇分、 朔六時五十一分、鼻の日、仙台七夕	三十日	五黄	大安	翼 収
八日	木	ひのえ	長崎原爆記念日	旧七月	四緑	先勝	軫 収
九日	金	ひつじと	不成就日	朔日	三碧	友引	角 開
十日	土	つちのえ	天しや	一日	二黒	先負	亢 閉
十一日	日	とちのり	不成就日	二日	一白	仏滅	氏 建
十二日	月	いかのぬえ	末伏	三日	九紫	大安	房 除
十三日	火	かのと	旧七夕	四日	八白	赤口	心 満
十四日	水	みずのえ	●上弦一九時五十六分 八せん始め、一粒万倍日	五日	七赤	先勝	尾 平
十五日	木	みずのえ	戦没者追悼・平和祈念の日	六日	六白	友引	箕 定
十六日	金	ときのえ	京都・箱根大文字	七日	五黄	先勝	斗 執
十七日	土	うきのと	不成就日	八日	四緑	仏滅	牛 破
十八日	日	たひのつえ	不成就日	九日	三碧	大安	女 危
十九日	月	みひのと	不成就日	十日	二黒	赤口	虚 成
二十日	火	つちのえ	●望一〇時四十五分、旧ぼん	十一日	一白	先勝	危 収
二十一日	水	つちのえ	●望一〇時四十五分、旧ぼん	十二日	九紫	友引	室 開
二十二日	木	さかのえ	●望一〇時四十五分、旧ぼん	十三日	八白	先負	壁 閉
二十三日	金	とかのり	処暑 八時〇二分	十四日	七赤	仏滅	奎 建
二十四日	土	みずのえ	旧七月 日出 五時〇〇分 日入 一八時三二分 (山形)	十五日	六白	大安	婁 除
二十五日	日	みずのえ	八せん終り、不成就日、 三りんぼう	十六日	五黄	先勝	胃 満
二十六日	月	ねきのえ	甲子、一粒万倍日	十七日	四緑	先勝	昂 平
二十七日	火	うきのと	●下弦一八時三十分	十八日	三碧	友引	畢 定
二十八日	水	とひのえ	●下弦一八時三十分	十九日	二黒	先負	觜 執
二十九日	木	うひのと	●下弦一八時三十分	二十日	一白	仏滅	參 破
三十日	金	つちのえ	旧地蔵ぼん	二十一日	九紫	大安	井 危
三十一日	土	みちのと	己巳	二十二日	八白	赤口	鬼 成

八月の行事

2日 学制発布記念日 明治5年のこの日、太政官布告で近代的学制が確立した。

15日 終戦記念日 昭和20年のこの日、日本はポツダム宣言を受諾し、天皇は終戦の詔勅文を国民に伝えた。

県内の主な行事

3日 酒田港まつり (酒田市) 酒田港開港を記念して行われる。豪華な花火大会が見物。

5日 花笠まつり (山形市) 昭和38年から始められ、東北四大まつりの一つに数えられる。山車を先頭に花笠音頭を踊りながら市内をパレードする。

14日 山形大花火大会 (山形市) 市内を流れる須川河畔で行われる。花火の種類・数ともに豊富で、東北有数の花火大会。

17日 庄内大祭 (鶴岡市) 庄内藩主をまつる庄内神社の例祭。大名行列が再現され、黒川能が奉納される。(15日)

15日 左沢花火大会 (大江町) 一万個にのぼる流し灯籠と豪華な打ち上げ花火が有名。

16日 真室川まつり (真室川町) 花火大会、真室川音頭のパレード。

16日 大石まつり (大石町) 昼は花笠踊り、夜は灯籠流し、花火大会が行われる。

22日 村山まつり (村山市) 奴振り、獅子おどりまた仮装行列などが町をねり歩く。

24日 新庄まつり (新庄市) 冷害に苦しむ領民に活気と希望を持たせるため、五代藩主戸沢正謀が始めたといわれる。十数台の山車パレードは東北一と知られる。

27日 尾花まつり (尾花沢市) 花笠音頭発祥地として、正調花笠音頭のパレードが市内をねり歩くのが見物。

神社の祭典日

1日 鳥海月山両所宮祭 山形市宮町

伊勢両宮祭 鶴岡市神明町

八坂神社祭 高島町深沼

愛宕羽山両神社祭 米沢市遠山町

熊野神社祭 寒河江市慈恩寺

洲島八幡神社祭 川西町洲島

鳥越八幡神社祭 新庄市鳥越

手長稻荷神社祭 上山市細谷角坊

成島八幡宮祭 米沢市広幡町成島

熊野神社祭 山形市六日町

皇大神社祭 庄内町廻館

飛鳥神社祭 酒田市飛鳥

八所神社祭 川西町吉田

両所宮穀だめし 山形市官町

17日 庄内神社祭 鶴岡市馬場町

城輪神社祭 酒田市城輪

諏訪神社祭 西置賜郡飯豊町萩生

河内神社祭 鶴岡市本郷

大宮子易両神社祭 西置賜郡小国町大宮

18日 両所神社祭 鶴岡市添川

八坂神社祭 真室川町新町

戸澤神社祭 新庄市堀端町

天満神社祭 新庄市堀端町

熊野神社祭 東置賜郡川西町堀金

諏訪神社祭 東置賜郡川西町上小松

諏訪神社祭 尾花沢市尾花沢

八幡神社祭 西村山郡河北町溝延

31日 若宮八幡神社祭 東根市東根

山形	日出	日入
一日	五・〇八	八・〇九
二日	五・一六	七・五四
三日	五・二五	七・三八

1日 防災の日 大正12年のこの日関東大地震があつた。災害について認識を深め、対処する心構えをつくる日。

9日 重陽 九は陽教で、九が重なるから重陽という。古来中国では奇数の月と日が重なる日を祝日にあてる風習があつた。また、菊の節句ともいう。

第三月曜日 敬老の日（もと9月15日）お年寄をいたわり、うやまう日。この日から老人福祉週間が始まる。

19日 十五夜 中秋の名月。旧暦の8月15日の夜をいう。ススキを立て、団子、里芋、枝豆などを月に供えて祭る。

23日 秋分の日 祖先をうやまい、なくなつた人々をしのぶ国民の祝日。

第二土日 赤湯温泉ふるさとまつり〔南陽市〕
鳥帽子山八幡宮の例祭神賑行事として行わ
れるもので、稚児行列、獅子舞、ぶどう即
売会などが催される。

14 16日 寒河江まつり（寒河江市）寒河江
八幡宮境内で行われる流鏝馬（やぶさめ）は
鎌倉時代から受け継がれてきた珍しい行事。
14 17日 谷地どんがまつり（河北町）谷地
八幡宮の例祭。谷地（林家）舞楽、はやし
屋台、谷地奴などの催事や、奉納行事（仕
舞・献茶・献花・詩吟等）が行われる。

九月の行事

1日 二百十日 立春から数えて二一〇日目。台風季節で要注意。

1日 防災の日 大正12年のこの日関東大地震があった。災害について認識を深め、対処する心構えをつくる日。

9日 重陽 九は陽数で、九が重なるから重陽という。古来中国では奇数の月と日が重なる日を祝日にあてる風習があった。また、菊の節句ともいう。

第三月曜日 敬老の日（もと9月15日）お年寄をいたわり、うやまう日。この日から老人福祉週間が始まる。

19日 十五夜 中秋の名月。旧暦の8月15日の夜をいう。ススキを立て、団子、里芋、枝豆などを月に供えて祭る。

23日 秋分の日 祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ国民の祝日。

県内の主な行事

第二土日 赤湯温泉ふるさとまつり（南陽市）

烏帽子山八幡宮の例祭神賑行事として行われるもので、稚児行列、獅子舞、おどろ即売会などが催される。

14く16日 寒河江まつり（寒河江市）寒河江八幡宮境内で行われる流鏝馬（やぶさめ）は鎌倉時代から受け継がれてきた珍しい行事。

14く17日 谷地どんがまつり（河北町）谷地八幡宮の例祭。谷地（林家）舞楽、はやし屋台、谷地奴などの催事や、奉納行事（仕舞・献茶・献花・詩吟等）が行われる。

[illegible]

1111

かみなづき
神無月

十月大

参宿 壬戌三碧木星月
暗劔殺 東の方

山形 日出 日入
時分 時分
一日 五五五 五五五
二日 五五五 五五五
三日 五五五 五五五

日	七曜	千支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三才	土曜
一日	火	かのえ	共同募金、法の日、 全国労働衛生週間	旧八月 二七日	三碧	仏滅	翼	平
二日	水	かのし		二八日	二黒	大安	軫	定
三日	木	みずのえ		二九日	一白	赤口	角	執
四日	金	みずのと		三十日	九紫	先勝	亢	破
五日	土	たきのえ	●朔九時三五分 不成就日	旧九月 朔日	八白	先負	氏	危
六日	日	みきのと		二日	七赤	仏滅	房	成
七日	月	うひのえ		三日	六白	大安	心	収
八日	火	ひひのえ	寒露 一一時五八分	四日	五黄	赤口	尾	収

寒 露

旧九月節 日出 五時四〇分 日入 一七時二二分(山形)

日	七曜	千支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三才	土曜
九日	水	つちのえ		五日	四緑	先勝	箕	開
十日	木	つちのと		六日	三碧	友引	斗	閉
十一日	金	いのえ		七日	二黒	先負	牛	建
十二日	土	かのと	●上弦八時〇二分、亥の子餅、 芭蕉忌 旧重陽 八せん始め、不成就日	八日	一白	仏滅	女	除
十三日	日	みずのえ		九日	九紫	大安	虚	満
十四日	月	うみずのし	体育の日 鉄道の日	十日	八白	赤口	危	平

十月の行事

1日 法の日 法の尊重、基本的人権の擁護
秩序の確立などの意識の高揚のため設けられた日。

10日 目の愛護デー 10月10日が眉と目に似
ているということで制定。

第2月曜日 体育の日(もと10月10日)東京
オリンピック(昭和39年)の成功を記念
して、国民の体育の向上を目的として制定。

14日 鉄道記念日 明治5年に新橋―横浜間
が開通したのを記念して設けられた。

17日 十三夜 後の月見ともいう。旧暦9月
13日の夜をいう。枝豆、栗などを供える。

20日 えびす講 恵比須神を祭り、商売の繁
盛を祈る。この日廉価大売出しをするのを
誓文弘という。

26日 原子力の日 昭和38年のこの日、東海村
の動力試験炉にはじめて原子の火が燃えた。

27日 11月9日 読書週間 文化の日を中心
に前後二週間。

県内の主な行事

6日 豊烈神社祭(山形市) 特殊神事の打穂
は全国でも数少ない珍しい行事。八人の騎
士が紅白に分かれ、庭上の穂を穂杖ですくつ
て的に投入する競技で、その早さを競う。
神社の祭典日

6日 豊烈神社祭 山形市桜町

9日 熊野神社祭 天童市久野本

10日 鮎貝八幡宮祭 白鷹町鮎貝

満光稲荷神社祭 山形市十文字

満光稲荷神社祭 鶴岡市湯ノ浜

日	七曜	千支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三才	土曜
十五日	火	とぎのえ		十一日	七赤	先勝	室	定
十六日	水	うきのと		十二日	六白	友引	壁	執
十七日	木	たひのえ	神宮神嘗祭、十三夜	十三日	五黄	先負	奎	破
十八日	金	みひのと		十四日	四緑	仏滅	婁	危
十九日	土	つちのえ	○望八時三十八分 一粒万倍日、三りんぼう	十五日	三碧	大安	胃	成
二十日	日	つちのえ	土用一四時四六分、皇后御誕生日、 えびす講、誓文弘	十六日	二黒	赤口	昂	収
二十一日	月	さかのえ		十七日	一白	先勝	畢	開
二十二日	火	とかのえ	平安神宮時代祭 一粒万倍日	十八日	九紫	友引	觜	閉
二十三日	水	みずのえ	霜降 一五時一〇分、電信電話記念日	十九日	八白	先負	参	建

霜 降

旧九月中 日出 五時五五分 日入 一六時五〇分(山形)

日	七曜	千支	主 要 事 項	旧暦	九星	六曜	三才	土曜
二十四日	木	みずのと	国連の日 八せん終り	二十日	七赤	仏滅	井	除
二十五日	金	ねきのえ		二十一日	六白	大安	鬼	満
二十六日	土	うきのし	原子力の日	二十二日	五黄	赤口	柳	平
二十七日	日	とひのえ	●下弦八時四〇分、読書週間	二十三日	四緑	先勝	星	定
二十八日	月	うひのと		二十四日	三碧	友引	張	執
二十九日	火	つちのえ		二十五日	二黒	先負	翼	破
三十日	水	つちのと	不成就日	二十六日	一白	仏滅	軫	危
三十一日	木	かのえ	一粒万倍日、三りんぼう	二十七日	九紫	大安	角	成

○十月の平均気温(平成二十三年) 山形14.1 酒田15.9 新庄13.4 [気象庁]

国民の祝日

【元旦】一月一日 年のはじめを祝う。

【成人の日】一月二日 青少年の自覚と責任を促す。

【建国記念の日】二月十一日 建国をしのび、国を愛する心を養う。

【春分の日】春分日 自然をたたえ、生物をいつくしむ。

【昭和の日】四月二十九日 激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。

【憲法記念日】五月三日 日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。

【みどりの日】五月四日 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。

【こどもの日】五月五日 こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。

【海の日】七月第三月曜日 海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う。

【敬老の日】九月第三月曜日 多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。

【秋分の日】秋分日 祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ。

【体育の日】十月第二月曜日 スポーツにたししみ、健康な心身をつちかう。

【文化の日】十一月三日 自由と平和を愛し、文化をすすめる。

【勤労感謝の日】十一月二十三日 勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあふ。

【天皇御誕生日】十二月二十三日 天皇の御誕生日を祝う。

しもつき 霜月

十一月小

癸亥二黒土星月
暗鏡殺 坤の方

山形 日出 日入
一日 六時 六時
六日 六時 六時
十一日 六時 六時
十六日 六時 六時
二十一日 六時 六時
二十六日 六時 六時
三十一日 六時 六時

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土曜
一日	金	かのと	計量記念日、米穀年度始め、灯台記念日、自衛隊記念日	旧九月二十八日	八白	赤口	亢	収
二日	土	みずのえ		二十九日	七赤	先勝	氏	開
三日	日	とみずのり	文化の日 ●朝二時五〇分、の酉、明治神宮祭 一粒万倍日	旧十月朔日	六白	仏滅	房	閉
四日	月	きのぬえ	振替休日	二日	五黄	大安	心	建
五日	火	いきのと	旧亥の子餅、炉開き	三日	四緑	赤口	尾	除
六日	水	いひのえ		四日	三碧	先勝	箕	満
七日	木	うひのし	立冬 一五時一四分	五日	二黒	友引	斗	満
八日	金	つちのえ	世界都市計画の日、ふいご祭	六日	一白	先負	牛	平
九日	土	つちのえ	秋の全国火災予防運動、太陽暦採用記念日	七日	九紫	仏滅	女	定
十日	日	かのと	●上弦一四時五七分	八日	八白	大安	虚	執
十一日	月	みかのと	世界平和記念日	九日	七赤	赤口	危	破
十二日	火	みずのえ	とおかんや	十日	六白	先勝	室	危
十三日	水	みずのえ		十一日	五黄	友引	壁	成
十四日	木	さきのえ		十二日	四緑	先負	奎	収

十一月の行事

1日 灯台記念日 明治元年のこの日観音崎に日本初の洋式灯台ができた。

3日 文化の日 旧制の明治節で明治天皇誕生日。戦後は新憲法が公布された日として平和と文化の重要さを認識する日となった。

5日 旧亥の子餅 旧暦十月初亥の日に餅をついて無事息災、子孫繁栄を祝す。この日開されていた切炉を開く。

9日 太陽暦採用記念日 明治5年のこの日太陽暦が採用された。

12日 とおかんや 旧暦十月十日の夕。東日本で稲刈りを終わって、田の神が山へ帰っていくのを送る行事、収穫祭。

15日 七五三 三、五才の男児、三、七才の女児の祝い。(山形県では十月十五日に繰り上げて行う地域もある。)

15〜2月15日 狩猟解禁 (地域や動物によって期間の長短がある。)

23日 勤労感謝の日 勤労を尊び生産を祝い、国民が互いに感謝し合う日。また新嘗祭ともいい、宮中をはじめ全国の神社で新穀を神に供える神事が行われる。

県内の主な行事

3日 鶴ヶ岡城址 菊花展(鶴岡市) 十月下旬から十一月上旬にかけて庄内神社表参道に於いて、庄内の菊愛好家が丹精込めてつくった大輪が展示され、菊の抽選会等の催しもある。

小雪

旧十月中 日出 六時二七分 日入 一六時二二分(山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	土曜
十五日	金	きのと	二の酉、七五三	十三日	三碧	仏滅	婁	開
十六日	土	いひのぬえ	一粒万倍日	十四日	二黒	大安	胃	閉
十七日	日	いひのぬえ	三りんぼう	十五日	一白	赤口	昂	建
十八日	月	つちのえ	●望〇時一六分	十六日	九紫	先勝	畢	除
十九日	火	つちのし	一茶忌	十七日	八白	友引	觜	満
二十日	水	かのえ		十八日	七赤	先負	参	平
二十一日	木	かのと		十九日	六白	仏滅	井	定
二十二日	金	みずのえ	小雪 一二時四八分、旧えびす講、旧誓文私	二十日	五黄	大安	鬼	執
二十三日	土	みずのえ		二十一日	四緑	赤口	柳	破
二十四日	日	きのぬえ	●勤労感謝の日	二十二日	三碧	先勝	星	危
二十五日	月	ひつじ	天一天上	二十三日	二黒	友引	張	成
二十六日	火	さひのえ	●下弦四時二八分	二十四日	一白	先負	翼	収
二十七日	水	とひのり	三の酉	二十五日	九紫	仏滅	軫	開
二十八日	木	つちのぬえ	一粒万倍日	二十六日	八白	大安	角	閉
二十九日	金	つちのぬえ	一粒万倍日	二十七日	七赤	赤口	亢	建
三十日	土	ねかのえ	不成就日	二十八日	六白	先勝	氏	除

神社の祭典日

2日 県護国神社秋季慰霊祭 山形市薬師町

3日 稲荷神社 祭 鶴岡市大山

七五三

十一月十五日に三才と五才の男児、三才と七才の女児を両親などがつれて宮参りすることを「七五三詣」といっています。これは昔は関東に多くありましたが、今では全国的な習俗になっています。七五三の祝いは江戸時代に將軍綱吉の子の徳松君が行ったといいますが、大よそ江戸時代には一般化していたのでしょう。

男児五才の祝をハカマ着、女児七才の祝をオビムスビ、オビトキ、ヒモトキ、オゼンスワリなどといって、ともに母親の里方から三ツ身の祝着などを贈る習わしです。

子供は神の子といわれますが、昔はこの時に人別帳(戸籍)に書かれて、初めて一人前に取扱われたといえます。出産にあたって安産祈願をした子供が、同じ産土神(生まれた土地の氏神)の前に成長の報告をし、さらにその守護を願う風習は、恐らくわが国だけにあるものでしょう。「よつぎ」の子らを祖先の神々の御守護のもとに祝うことに、民族の生命観を見る思いがします。わが子の手を引く両親の心に過ぎし年月のことが去来し、神さまも限らない祝福を与えて下さるでしょう。

しわす
師走

十二月大

鬼宿 甲子一白水星月
暗剣殺 北の方

山形 日出 日入

一日 六時 六時
六時 六時
六時 六時
六時 六時

十二月の行事
1 31日 歳末助け合い運動 恵まれない人
びとのために金品を提出する運動。
4 10日 人権週間 法務省および全国人権
擁護委員連合会が主催者となり昭和24年か
ら実施されているもので、人権の擁護と尊
重を呼びかける。
15日 年賀郵便の特別扱い開始
23日 天皇御誕生日
28日 官庁御用納め
31日 大祓 一年間の罪けがれをはらい清め
る。
31日 除夜祭 今年中の感謝と来るべき新年
の幸福を祈願する。
県内の主な行事

大雪

旧十一月節 日出 六時四十分 日入 一六時一十八分 (山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	十二
一日	日	うかのしと	映画の日	旧十月二十九日	五黄	友引	房	満
二日	月	みずのえ		三十日	四緑	先負	心	平
三日	火	みずのと	●朔九時三十分	旧十一月朔日	三碧	大安	尾	定
四日	水	たきのつ	人権週間	二日	二黒	赤口	箕	執
五日	木	みきのと	納めの水天宮	三日	一白	先勝	斗	破
六日	金	うひのま		四日	九紫	友引	牛	危
七日	土	ひつじと	大雪 八時〇九分	五日	八白	先負	女	危
八日	日	つちのえ	こと納め、針供養、納めの薬師	六日	七赤	仏滅	虚	成
九日	月	つちのり		七日	六白	大安	危	収
十日	火	いかのぬえ	●上弦〇時三十分、納めの金比羅	八日	五黄	赤口	室	開
十一日	水	かのと		九日	四緑	先勝	壁	閉
十二日	木	みずのえ	一粒万倍日	十日	三碧	友引	奎	建
十三日	金	みずのし	八せん始め、一粒万倍日	十一日	二黒	先負	婁	除
十四日	土	ときのえ	三りんばう	十二日	一白	仏滅	胃	満

31日 松例祭 (羽黒町) 出羽三山神社の神事で、つがむしという大きなたいまつを切って参拝者に撒くことで有名。その他修験者の験競べ、たいまつの大綱引きなどが行われる。
神社の祭典日
8日 湯殿山神社年越祭 西川町本道寺
第1日曜日 大社梓神社年越祭 米沢市万世町梓山

冬至

旧十一月中 日出 六時五十二分 日入 一六時三十分 (山形)

日	七曜	干支	主 要 事 項	旧暦日	九星	六曜	三才	十二
十五日	日	うきのと	年賀郵便特別扱始め	十三日	九紫	大安	昴	平
十六日	月	たひのつえ		十四日	八白	赤口	畢	定
十七日	火	みひのと	○望一八時二十八分、神宮月次祭	十五日	七赤	先勝	觜	執
十八日	水	つちのえ	納めの観音	十六日	六白	友引	參	破
十九日	木	つちのし		十七日	五黄	先負	井	危
二十日	金	さかのるえ		十八日	四緑	仏滅	鬼	成
二十一日	土	かのり	納めの大師	十九日	三碧	大安	柳	収
二十二日	日	みずのぬえ	冬至 二時一分、冬至星供祭	二十日	二黒	赤口	星	開
二十三日	月	みずのし	天皇御誕生日 天長祭 分替り不替賀 務留	三十一日	一白	先勝	張	閉
二十四日	火	ねきのえ	納めの地藏 離道始め、天しや、甲子、一粒万倍日	三十二日	一白	友引	翼	建
二十五日	水	うきのし	●下弦二二時四十分、終い天神、蕪村忌	三十三日	二黒	先負	軫	除
二十六日	木	とひのえ		三十四日	三碧	仏滅	角	満
二十七日	金	うひのと	官庁御用納め	三十五日	四緑	大安	亢	平
二十八日	土	つちのつえ	納めの不動	三十六日	五黄	赤口	氏	定
二十九日	日	みちのと		三十七日	六白	先勝	房	執
三十日	月	かのえ	取引所納会	三十八日	七赤	友引	心	破
三十一日	火	ひかつじと	大祓、除夜祭、年越し	三十九日	八白	先負	尾	危

除夜

夜は生に通じます。新年に続く。よが切れてはならないので、生命のアカシであるところの火を燃やし続け、いのちが長く続く願いをこめて「年越しそば」などをたべ、家中の者が心静かに団らんしながら語り明かす習慣が全国にあります。これは正月を迎えるための、厳肅なおコモリを意味します。
師走に入ってから慌しさもすっかり済んでしまうと、ほんと安心します。カワビタリ、納め八日、針供養、煤払い、歳の市、先祖の御魂祭、お歳暮、餅つき、松迎え、冬至その他こまごまとしたこと一つ一つ古い仕来りのままに無事に終って、テレビを楽しみながら、氏神さまに初詣をする心組で、一家の団らんが続きます。
神社では大晦日の夕刻、今年中の罪けがれを払うために大祓式が行われ、引き続いて今年中の感謝と来るべき新年の幸福を祈願して本年最後の祭儀「除夜祭」が行われます。